

会報 (第18号)

目 次

特 集 :

G.ソロス アルゼンチンへの果敢な投資 2

アルゼンチン政治・経済速報 4

博物学者、文学作家 7

 ウイリアム・ハドソンと日本との関係
 —ハドソン家とシンヤ家—

ビデオで見るアルゼンチン映画 9

絵本、月刊誌など2,000冊 11
 在ア日本語教育連合会へ贈る

現地だより 11

 高野太郎 TV ゲストに
 セニョール・タンゴ

文化行事のお知らせ 13

 絵画展、バザー、
 タンゴ演奏会花ざかり

お知らせ 15

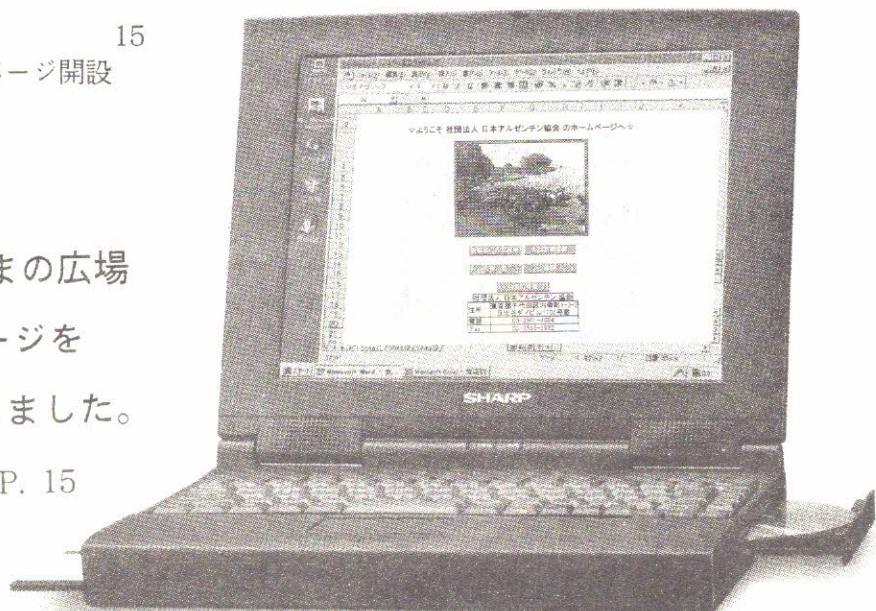
 当協会のホームページ開設

人事往来 17

会員みなさまの広場

ホームページを
開設しました。

詳細は、 P. 15



社団 日本アルゼンチン協会
会報第十八号 一九九七年十月二十一日発行
編集人 渡部村秀
千代田区内幸町一ノ二ノ二
日比谷ダイビル一七〇五号室
FAX (三五〇二)四六八四番
（三五九五）三九三三番
電話 透治秀
E-mail: j-arugel@pinos.co.jp

特集： G. ソロス アルゼンチンへの果敢な投資

すでに 540 億円を投資

5 年前にイングランド銀行を窮地に追込み、最近では ASEAN 各国の通貨下落に関係したと噂されている世界的なヘッジ・ファンド王、ジョージ・ソロスは、一方ではアルゼンチンの土地や不動産に驚くべき投資をつづけている。いまやアルゼンチン最大の大地主になり、過去 5 年間の投資総額は 4 億 5 千万ドル（540 億円）を超えると言われている。

ソロスの数奇な足跡

1930 年、ハンガリー系ユダヤ人弁護士の子として生れ、少年時代にナチスのハンガリー侵入につづくユダヤ人狩りを逃れ、1947 年にソ連統治下のハンガリーから英国に移り、ロンドンの大学で哲学を専攻した。1956 年に米国に移住し、株の売買を研究するうちに世界中の通貨の変動に応じて大量の資金が流動していることに着目し、ヘッジ・ファンドの仕事を始めた。70 年の終りには大金持ちになり、80 年に入ってソロスは、儲けた資金を慈善事業に寄付し始めた。1996 年までに寄付した総額は 13 億ドル（1560 億円）、毎年の寄付額 3 億 5 千万ドル（420 億円）をこれからも続ければ、今後 10 年以内に米国の偉大なる慈善事業家、ロックフェラーやカーネギーを凌駕すると言われている。（タイム誌）。

少年時代の体験的学習

オックスフォード大学から名誉学位を与えられたとき、自らを「金融的、慈善事業的、哲学的投機家」と呼んで欲しいと洩らしたソロスは、この才覚は少年時代に父親が当時の絶望的な状況を賢明に生き抜いた方法から体験的に学んだと延べている。さらに大学でのポバー教授の内省的哲学の教えも大きく影響している。一日の 3 分の 1 は「自分は何処へ行くべきか、世界は何処へ行くのか」を考える時間に当てているソロスは、いまアルゼンチンへの果敢な投資を進めている。

ア国への投資の実態

らぶらた報知によれば、ソロスが経営している不動産会社 IRSA はブエノスアイレスでも象徴的な建物を買収している。

- ◆旧メルカード・アバースト 1400 万ドル
- ◆ガレリア・パシフィコ 1210 万ドル
- ◆旧港界隈のプエルト・マデーロ

第 5 、第 6 ドック 620 万ドル、第 2 ドック 1750 万ドル

- ◆貸しビルのルレーロ（ヌ・デ・フリオトリベリタール） 2650万ドル
- ◆マーブレ（スイパチャ 街ある英系の高級家具会社） 450万ドル

さらに、もう一つの会社RESUDは

- ◆ア国最高の場所にある3万ヘクタールのパンパ
- ◆港につづくラプラタ河を埋め立てた敷地
- ◆ボカにあるシュダー・デボルティバ（スポーツ都市） 5150万ドル
- ◆ショッピング・パセオ・アルコルタ 5400万ドル
- ◆前クレジット銀行が所有していた14店舗

もそれぞれ買収した。ソロスが狙っているのは主として中産階級層のようだ。たとえば、

- ◆ペラサテーギのルータ2沿いにあるアブリル私有区域の435区画 1250万ドル
- ◆バルケ・ペレイラ（サリータ・アンチョレーナ・デ・ペレイラ・イラオラが所有していた牧場）の135ヘクタールを遊園地、ショッピング・センター、高層住宅ビル

にする計画をもっている。バリローチェでは有名な

- ◆ホテル・ジャオジャオ 1300万ドル
- を買収した。（らぶらた報知）

アルゼンチンは南米進出の拠点に

ソロスはアルゼンチンを対象にする限り、かつてのイングランド銀行やアセアン諸国にみられるようなマネー・ゲームの姿勢は伺われず、積極的に不動産や土地に投資を続けているのが特徴のようだ。現地ではアルゼンチンは、ソロスの南米市場進出の本部であり拠点になっているとの見方が強い。

よみがえるアルゼンチンをソロス独特の視点では、このように捉えており、これからも同じ姿勢を取り続けるとすれば、わが国の出遅れ感は否定できない。

去る9月29日、日本・東京商工会議所訪南米経済ミッション（58名）を迎えたア国経済・公共土木省との懇談会の席上で、日本側の「外国人による土地所有は将来とも問題なきや」との質問にア国側は「全く心配ない」と明言した。ついでオーキタ財団アルチュウロン理事長が立ち上がり、こう熱弁をふるった。

「ドイツ、イタリア、フランス、スペイン、英国、米国などの欧米列強がア国（アゼンチニア）の土地を買い占めている今日、日本はどうしているのか。日本も遅れてはいけない」。

アルゼンチン政治・経済速報

小林 晋一郎

◎政治・経済

- ブエノスアイレス市民の期待と注目を集めていた2004年のオリンピック開催地はアテネに決定された。ブエノスアイレス市は最終選考に残った5都市のうち最下位に終った。
- 政府は9月12日、30年物グローバル債22億5千万ドルを発行、クーポンは9.75%（発行額のうち17億5千万ドルはブレイディ債の期限前償還に充てられる）。政府はこれにより債務の長期化と金利コスト削減を図ることが出来る。
- 米国政府は6月、アルゼンチン産の冷凍および冷蔵牛生肉の米国市場向け船積みを8月から認めると発表。これにより、口蹄疫で米国への販売が停止された31年以来、66年振りに牛生肉の対米輸出が可能となり、8月25日、エセイサ空港から初回の牛生肉が輸出された。空港にはソラ農牧庁長官のほか関係業者がこれを見送った。食肉輸出の次の目標は日本・アジアである。
- 証券市場育成のためブエノスアイレス証券取引所に外国株が上場されることとなり、コカコーラ、マイクロソフトなどの株式が上場される予定である。株式現物ではなく預かり証番CEDAR (CERTIFICADO DE DEPOSITOS ARGENTINOS) で売買される。
- 野党の急進党とフレパソ党は10月の選挙を前にして野党連合を結成、チーフエコノミストに急進党政権時代の中銀総裁であったマチネアを起用した。ただし、州によっては連合が結成されない州もある。10月選挙の前哨戦として注目を集めた8月24日のチャコ州議会議員選挙ではこの野党連合は59.6%の得票率で与党ペロン党の得票率31.6%を大きく引き離して勝利した。
- 8月14日、失業率の改善を求めて労働組合CGTによる全国規模のストライキが決行された。地方都市では暴力事件が勃発したが政府は野党連合が煽動したと非難した。ストへの参加率は27%以下と低調であった。

- 7月28日、郵便事業の民営化入札の結果、マクリ・グループとガリシア銀行のコンソシウムが5千100万ペソで落札した。ガリシア銀行の思惑は郵便局の一部で銀行業務を展開することにある模様である。
- 政府発表による5月の失業率は96年10月比1.2%減の16.1%となった。最近の好況に支えられ大幅な雇用創出の結果、失業率の減少となった。
- 国会に提出された98年予算の前提となっている98年の経済見通しは実質経済成長率6%、財政赤字対GDP比3.5%、財政赤字額は本年の予想45億ドルを下回る35億ドルである。
- 民間調査期間INDECによれば、97年1月から7月までの輸出額は147億2千8百万ドル、輸入額は165億9千百万ドルで貿易収支は18億6千2百万ドルの赤字となった。主要輸出品である農産物の収穫が既に終っており、これから年末にかけて輸出額が減少することから97年の貿易収支の赤字は40億ドルに達するものと予想される。
- 経済省の発表によれば本年上半期の経済成長率は8%となった。なお、昨年の経済成長率は4.3%であった。
- 経済省キゲル金融担当次官は東京で開催されたアルゼンチン・ロード・ショウで以下の通り98年のアルゼンチンのフィナンシャル・プランを明らかにした（単位：億ドル）。

－ファイナンス必要額		－ファイナンス予定額	
財政赤字	35	海外調達	75
償還額	98	国内調達	50
国債LETE 償還額	30	国債LETE 発行	30
その他	11	国際機関	19
合 計	174	合 計	174

- 8月、メンドサ州のラ・モラからチリの首都サンチャゴの郊外までのガス・パイplineが完成、式典にはメネム大統領とフレイ大統領が出席しガスを通すバルブを開けた。パイplineは全長463キロ、総工費3億2千5百万ドルでコンソシウムのガスアンデス社はカナダ、チリとアルゼンチン企業から構成されている。

○ベルリンに本部のある民間調査機関TRASPERENCIA INTERNACIONALの世界52ヶ国の腐敗度調査によればアルゼンチンは11位である。腐敗度の高い順に列挙すると以下の通り（カッコ内の点数は最悪が0で腐敗ゼロが10である）。

ナイジェリア (1.76)、ボリビア (2.05)、コロンビア (2.23)、ロシア (2.27)、パキスタン (2.53)、メキシコ (2.66)、インドネシア (2.72)、インド (2.75)、ベネズエラ (2.77)、ベトナム (2.79)、アルゼンチン (2.81)。

なお、日本は32位である。 (東銀リサーチインターナショナル理事)

◎日ア経済関係

斎木 茂治

○日商・東商対南米経済ミッション

9月後半、日本・東京商工会議所稲葉会頭を団長とする経済ミッションがチリ、アルゼンチン（内一部はペルー）を歴訪したが、アルゼンチンは9月29、30の両日、稲葉会頭以下諸橋三菱商事会長、春名丸紅相談役、山本トヨタ自動車副社長、宗国本田技研会長等約30名が訪問し、メネム大統領表敬、ア国経済省幹部ア国民間団体・企業、荒船大使以下在ア日本大使館、在亜日本商工会議所との懇談を行なった。ア国民間はア国商業会議所ディフィオリ会頭以下ブエノスアイレス証券取引所、工業連盟、農牧協会、マクロ経済研究所（CEMA）、大来財団等の代表・幹部が多数参加し盛況であった。

○日本アルゼンチン修好100周年記念事業

9月30日に諸橋日本側委員会委員長（三菱商事会長）、斎木同事務局長がア国側政府委員会のコーディネーター（運営責任者）であるア国外務省アイラルディ100周年行事担当大使以下の委員会メンバー（外務省アジア太平洋局員）と面談、意見交換を行った。同会談には在ア日本大使館荒船大使も同席された。

また、両氏はア国100周年民間委員会を構成する4団体（大来財団、亜日経済委員会、亜日協会、在亜日本商工会議所）代表とも面談、意見交換を行った。ア国側は委員会は既に政令によりメネム大統領が名誉委員会委員長、外務大臣・経済大臣が名誉委員となることを定めているが、今後外務省を主体として上記政府、民間両委員会の協力方式を決めることになっている。

（大来財団日本評議委員会事務局長
日本アルゼンチン修好100周年記念事業
組織委員会事務局長）

博物学者、文学作家ウイリアム・ハドソンと日本との関係 ——ハドソン家とシンヤ家——(1)

佐 藤 幸 正

序

William Hudson (1841 – 1922) はアルゼンチンに生まれ、33歳でイギリスに渡ると、作家活動を開始する。1900年には遂にイギリスに帰化し、81歳でその生涯を閉じるのだが、渡英後は一度も生国に戻ることはなかった。わが国では昭和9年翻訳の『ラ・プラタの博物学者』(The Naturalist in La Plata, 1892年) や、同12年の『緑の館』(Green Mansions, 1904年) そして同年の『はるかな国とほい昔』(Far Away and Long Ago, 1918) など、翻訳を通じて彼の名は知られるようになった。更には英語の教科書を通じて彼を知り、愛好者になった人もいるはずである。その彼は一体、日本と何か関係があるのだろうか。もしもあるとすれば、それは一体どんな関係なのか。本論の目的はこのことを明らかにすることにある。

ハドソンとの関係を詳らかにしようとして、24巻からなる全集を繙き、くまなく探してみても、それらしい記述はほとんど見当らない。ごく稀に日本に関する記述が発見されたとしても、それは内容的にみて重要であるとは思えない。作品を通読して判断する限り、二者の関係は皆無に等しいと言える。彼と日本との関係はむしろ、作品を離れたところに存在する。それは彼の妹及びその子孫を媒介とした日本との関係や、交流を意味している。以下、このことについて順次述べることにする。

1. 日本人シンヤ・ヨシオとの出会い

ハドソンと日本との関係は直接的なものではなく、妹及びその子孫を介してのものである。先ず彼の家族構成、特に妹と彼女の子孫を知る必要がある。Herbart F. West はハドソンの遺言や家系などを収録した *For a Hudson Biographer* を発表しているが、これによるとウィリアム・ヘンリー・ハドソンは4番目の子として生まれている。結婚後夫婦の間に子供が授からなかったことから、彼の子孫は途絶える。他方、妹Maryは6番目の末っ子として生れ、一人娘Lauraを儲けている。一人娘ローラはYoshio Shinyaと結婚し、二人の間にViolataが誕生する。以下、このことを示すハドソン家の家系図から、特にウィリアム自身と、妹メアリーの箇所を抽出してみよう。

William Henry (Guillermo Enrique) born in Quilmes the 4th August 1841.
died in London the 18th August 1922. Married to Emily Wingrave,
without issue.

Mary Helen (Mrs. Denholme) born the 30th November 1846 in Quilmes and died 23nd August 1919.

One daughter : Laura, married to Yoshio Shinya (Japanese). Both died.

One daughter : Violeta (Sumi), Educacionist.

ローラ即ちハドソンの姪が日本人と結婚することで、日本との関係が俄かにクローズ・アップするのだが、ウエストはそのことには一言も触れていない。単にローラがヨシオ・シンヤ（日本人）と結ばれ、ヴィオレッタ（スミ）誕生の事実を記述するに止まっている。

ではどのようにして、ローラが日本人ヨシオ・シンヤと結婚するに至ったのか。この間の事情を、津田正夫は「W. H. Hudsonについて」と題した講演で、次のように述べている。

アルゼンチンと日本が航海修好条約を結んだのは1898年、駐米日本大使星亭の時であった。そのお祝の意味で、1900年にアルゼンチンの軍艦が長崎へ来た。その時の艦長が、日本人のボーイがほしいとある人に言ったことが、新聞に出たところ、佐賀の唐津の15の少年が、自分が行きたいと申し出た。それから、この少年は長崎へ出てきて、艦長に会ったのである。この少年がどんな言葉で話をしたかわからないが、艦長は英語ができたものと思う。とにかく採用されて、ずっと航海を続け、アルゼンチンに帰ると艦長は彼を自分の家に置いてまず小学校へ入れた。この少年は非常に頭がよく、しっかりしていたので、艦長に可愛がられたものと思う。彼は艦長の世話で遂に大学で法律を専攻し、卒業すると、日本の貿易商の所で働いた。当時はやり出したYMCAのクラブにはいったこの少年に、いろいろ友達ができた。そのうちに、ハドソンの妹のメリー・ヘレン（向うでマリヤ・エレナ）を知るようになった。メリーはハドソンが一番可愛がってどこへ行ってもよくその妹に手紙をやったもので、私はその手紙を持っているが、その中にはこのことがよくうかがわれる。もっともハドソンの2巻の書翰集には、それが一つものっていない。

彼はメリーと親しくなってから、その家に出入りするようになり、やがて、その娘のラウラ（つまり、ハドソンの姪）と結婚するに至った。

「唐津の15の少年」とは、ウエストの家系に見られたシンヤ・ヨシオのことである。彼はアルゼンチンに渡ると高等教育を受け、ハドソンの妹と親しくなったことが縁で、その娘ローラと結ばれたことがわかる。アルゼンチンにシンヤ家が誕生したのであり、やがてハドソン及びシンヤ両家の血筋を引く日系二世のヴィオレッタが誕生するのである。ヴィオレッタのことは後述することにして、津田正夫は結婚した二人が日本を訪れ、更にはロンドンのハドソンに面会した経緯を、次のように述べている。

そして新婚旅行に二人は日本にやって来た。すると、そこへ母メリーから、「お前たちは、まっすぐアルゼンチンに帰らず、ロンドンに立寄って伯父さん（ハドソン）に会って、自分が達者で暮らしていることを伝えてくれ」という手紙が来た。一つには、不幸な自分の結婚生活、夫に捨てられて子女を育てた自分に同情し、絶えず手紙と金で力づけてくれた兄ウィリアムに自分の娘が大きくなって結婚したところを見せたいという気持もあったであろう。

そこで、この若夫婦は1909年に、ロンドンに行ってハドソンの家に3週間半泊った。とにかく、この青年（名は、シンヤ・ヨシオ）はハドソンに会った唯一人の日本人である。

1909年といえば、ハドソン68歳、代表作「緑の館」Green Mansions (1904) を発表後、文壇に地位を築き、次々に作品を発表していった時期にあたる。ハドソンは最初ホテルに止まっていた若夫婦のところへ毎日来て、二人を連れ出し、朝から晩まで案内して歩いた。やがて彼の家に泊めることになるのだが、スペイン語で話ができたのを大変喜んだ。話題も当然アルゼンチンのことには及び、妹や知人の消息を聞き涙を流したと言う。（つづく）
（弘前学院大学教授）

ビデオで見るアルゼンチン映画

小林 晋一郎

ミュージカル“エビータ”がマドンナを主演女優として映画化され日本でも大ヒットし、同時に劇団四季によるミュージカルが上演された。マドンナの“エビータ”に対抗してアルゼンチンでカルロス・デサンソ監督でアルゼンチンのキャストとスタッフによる映画“エバ・ペロン”が作られた。このアルゼンチン映画は史実に基づく実話で構成され、ブエノスアイレスの町を知っている人には懐かしい大統領官邸やヌエベ・デ・フリオ通りなどが出てくる。残念ながら日本では上映されなかったがビデオで見ることができる。ラテンアメリカ映画ファン以外でも、一女性を通じてのアルゼンチン現代政治史を知りたい人には是非見て欲しい作品である。

アルゼンチンは映画先進国で戦前は黄金時代もあったが、経済混乱や軍政時代、(76 – 83年) の検閲や言論・文化活動の統制で映画人には恵まれない長い時代があった。しかし、83年の軍政の終了と民政移行に伴い映画の表現内容を大きく規制していた法律第18019号が廃止されアルゼンチン映画界には再び明るい時代が到来した。84年以降、アルゼンチンでは娯楽超大作でないメッセージを伝える素晴らしい映画が作られ始め日本でも上映される事があった。ビデオ・レンタル店で探すこと

が出来るアルゼンチン映画を紹介したい。

— “オフィシャルストーリー” (*Historia Oficial*) 監督ルイス・プエンソ、84年
中学校で文部省制定のテキストで歴史を教えていたる女教師の家庭に夫が養女として女の子を連れて来た。その女の子は軍政時代に行方不明になった女性の子供であった。この映画はラテンアメリカで初めてオスカー外国優秀映画賞を受賞した。ルイス・プエンソはその後ハリウッドで活躍、メキシコの作家カルロス・フェンテスの作品“我がいとしのグリンゴ”を映画化した。

— “ミス・メアリー” (*Miss Mary*) 監督マリア・ルイサ・ベンベルグ、86年
“Camila” や “Yo, la peor de Todas”などの名作を作った女性監督の作品。金持ちの牧場主に雇われイギリスからやって来た住み込みの若い女性家庭教師を通じて軍部の政治介入など38年から45年までの政治の激動と、政治に関係なく生きる特権階級の家族生活を描いている。

— “タンゴ、ガルデルの亡命” (*El Exilio de Gardel, Tangos*) 監督フェルナンド・ソラナ、85年

軍政時代にパリに亡命したアルゼンチンの女性が喜びと悲しみを表現するタンゴディアを上演しようとする。題名のガルデルは勿論タンゴの巨匠ガルデルのこと。音楽は現代タンゴのアストル・ピアソラでタンゴのダンスと音楽が楽しめる作品。

— “ラテンアメリカ、影と光の詩” (*El Viaje*) 監督フェルナンド・ソラナ、92年
青年がアルゼンチンの最南端の街ウシュワニアを出発、ブエノスアイレスやサンパウロなどを通ってメキシコまで旅をする。痛烈なメネム大統領批判の映画。ペロニストであったソラナはメネムとの別離を宣言し政治新党を結成。ソラナが過激派ペロニストに銃撃され負傷する事件があった。

— “メイド・イン・アルゼンチナ” (*Made in Argentina*) 監督ファン・ホセ・フシ、86年

軍政を逃れてアメリカで生活するアルゼンチン人の家庭。軍政が終り久しぶりに懐かしい祖国を訪問、兄弟や友人に迎えられるが、子供がアメリカで育ったことや長年のギャップが大きく、寂しく再びアメリカに戻って行く心の葛藤を描いている。

絵本・月刊誌2,000冊、在ア日本語教育連合会へ贈る

ブエノス・アイレス日亜学院の神成校長の斡旋で、佐藤克巳福音館書店会長（当協会員）のご好意により、図書2,000冊（幼児用600冊、小学校低学年用月刊誌600冊、幼児用絵本400冊、小学校低学年用図書400冊、ダンボール32箱）を在ア日本語教育連合会（日亜学院及び全国の日本語学校約30校が加盟）に対し寄贈されました。

については、同連合会より当協会に寄贈図書の国内輸送、通関手続、船積輸送について便宜供与方依頼がありましたので、当協会としても協力し、前記手配等を行い、大阪商船三井船舶のSCORPIO CHALLENGER号に積込み10月14日横浜を出帆しました。海上運賃は大阪商船三井船舶の特別の計いで無料となりました。同号は11月26日頃ブエノス・アイレス港に入港予定。

船積輸送等にご協力、支援くださったジャパンエキスプレス、国際協力事業団、大阪商船三井船舶、外務省、在ア日本大使館の関係者皆様に紙面を借り心から厚く御礼申し上げます。

現地だより

◎高野太郎 CANAL 11にゲスト出演

アルゼンチンのテレビ局TELEFE 11チャンネルの番組は、最長寿の人気プログラム「Hola スサーナ」で「世界のゲスト」というトーク・コーナーに出演しました。スサーナ・ヒメーネスのこのプログラムは全中南米及び米国南部、スペインなどにも放映される番組でした。

「世界のゲスト」として日本からは私が初めて招待されました。私が銀座でガウチョルックで歩く姿や、今年5月河口湖で開催した第1回ユパンキ祭り、同年1月コルドバのコスキン祭りで、メネム大統領より馬を頂いた事などがビデオ化され、日本でのフォルクローレ事情やアルゼンチンの食物のこと、ユパンキから頂いたガウチョ服の事など楽しく20分余を語り合いました。スタジオを出ると街行く人が大勢挨拶して下さり、一週間経たあともサインとか一緒に写真をと驚く程の人気でした。（当協会員 高野氏寄稿）

◎「セニョール・タンゴ」開店

本格的な肉料理とタンゴ、フォルクローレを提供する、タンゴ・ディナーショウの劇場レストランが開店し、現地で話題をよんでいる。タンゴ・バンドは、2つに分かれ、若手演奏家は、ピアソラなどの新しい曲、熟年演奏家は、カナルなどのガルディア・ビエハ（古典名曲）をそれぞれ熱演。フォルクローレ演奏も質が高く、チャランゴの名演奏には、震えさえ覚えた。一と、先月帰国した的場博子さん（当協会会員）の最新情報。

住所 H. VIEYTES 1653, BARRACAS, TEL 303-0231~34

最近の政治・経済基礎データ

1. 政 治

○独立年 1816年

○マヌエル・ベルグラーノ将軍を中心とした独立戦争を経て、スペインから独立。

○面 積 278万平方キロ（我が国の約7.5倍）

○人 口 3,467万人（95年） ○首 都 ブエノス・アイレス

○人 種 欧州系（スペイン・イタリア）97%、インディオ系3%

○言 語 スペイン語 ○政体 立憲共和制 ○宗教 カトリック

○元 首 大統領（94年の憲法改正で任期4年、1回限りの連続再選可となる）
カルロス・サウル・メネム（任期は99年12月まで）

○議 会 二院制 上院72議席 下院257議席

○主要政党及び議席占有率

ペロン党（与党） 上院38議席（53%）、下院135議席（53%）

急進党（野党） 上院16議席（28%）、下院 68議席（26%）

2. 経 済

○主 要 産 業 農牧業（食肉、小麦等穀物） 工業（自動車、機械）

○G N P 2784億ドル（95年、世銀）

○一人当たりのGNP 8030ドル（95年）（世銀）

○経済成長率 7.4%（94年）、-4.4%（95年）、4.4%（96年）（経済省）

○物価上昇率 1.6%（95年） 0.1%（96年）（経済省）

○失 業 率 17.3%（96年10月、経済省）

○貿易総額（96年） 輸出 238.2億ドル 輸入 237.5億ドル

○主要貿易品目（上位4品目） 輸出 穀物、皮革、冷凍肉、飼料

輸入 機械、輸送機器、化学製品、プラスティック製品

○主要貿易相手国（95年） 輸出：ブラジル、米国、刊、オランダ 輸入：米国、ブラジル、イタリア、ドイツ

○通貨ペソ ○為替レート 1米ドル=1ペソ（97年2月現在）（94年4月より固定相場）

○対外債務 996億ドル（97年6月）

文化行事のお知らせ

◎ロベルト・モリヤ（スペイン人）絵画展

日 時：10月8日（水）～11月8日（土）10：00～20：00

（土曜16：00迄、日曜祭日休館）

場 所：東西文化センター（03-3641-3805）

入場料：無料

交 通：東西線 門前仲町駅下車 3番出口より徒歩3分

連絡先：3630-9711 （有）イスパニカ（井戸光子 当協会員）

◎魅惑のタンゴ・ドナート・ラシアッティ楽団

日 時：11月1日（土）A 17：00～19：00、B 19：30～21：30

会 場：モロッコ（日比谷パークホテル 1F）

会 費：7,000円（2ドリンク、オツマミ、当協会員6,500円）

交 通：JR有楽町駅 日比谷口下車徒歩2分、日比谷線日比谷駅下車徒歩2分

出 演：ドナート・ラシアッティ楽団、歌 ロサーナ・フローレス

連絡先：3791-1519 日亜教育文化促進会

◎銀盤の魔術師エンリケ・クッチーニのタンゴ演奏会

日 時：11月 1日（土）14：00及び18：30 浦和市文化センター

11月 2日（日）15：00 千葉市民会館

11月28日（金）14：00及び18：30 品川きゆりあん

12月 6日（土） “ “ 目黒公会堂

出 演：エンリケ・クッチーニとリベルトリオ四重奏団

入場料：各会場とも3,000円（当協会員2,500円、全自由席）

主催・連絡先：国際文化交流協会 3726-4950（原田直二 当協会員）

◎日本・ラテンアメリカ婦人会主催チャリティー・バザー

（1997年フェスティバル・ラテイノアメリカーノ）

日 時：11月12日（水）11：30～15：00

場 所：東京全日空ホテルB1 凤（第1会場）、瑞雲（第2会場）

入場券：2,000円 抽選券付（抽選開始時刻13：30）

賞 品：海外旅行航空券、ワイン、ネックレス、レストラン・ディナー券等多数

交 通：銀座線、南北線 溜池山王駅下車 13番出口より徒歩2分

連絡先：03-3359-2824（西崎）、03-3362-3987（滝口）

◎ TANGO NIGHT—ドナート・ラシアッティ樂団演奏会

日 時：11月15日（土）ディナータイム 19:00～20:30

ショータイム 20:30～21:30

会 場：湘南ホテル 彩海の間（B1F）

出 演：ドナート・ラシアッティ樂団、踊り シンゴ&アスカ

会 費：20,000円（当協会員19,000円、秋の特別ディナー、お飲み物、税金、サービス料込）

予 約：0466-28-1122 湘南ホテル

◎銀座タンゴ・コンサート

日 時：12月3日（水）19:00 開演

会 場：銀座7丁目 ヤマハホール

入場料：4,000円（当協会員3,000円、全自由席）

出 演：演奏 岩崎法之とタンゴ・コスマス

唄 エンリケ岩尾、清水百合（当協会員）、峰万里恵

主 催：市川事務所・岩崎法之オフィス（03-3914-8090）

連絡先：03-3393-3023、03-3408-8779（清水）

◎クアルテート・タンゴ・ノルベルト・ラモス

日 時：12月5日（金）18:30 開演

会 場：よみうりホール（有楽町そごう7F）

入場料：前売5,500円（当協会員5,000円、全指定席、税込）

出 演：クアルテート・ノルベルト・ラモス

歌 カルラ・イバニエス、踊り シルビア&ジュニオール

連絡先：03-3770-4411 （株）ラティーナ

◎メンデルスゾーン・スペシャル

日 時：12月16日（火）19:00 開演

会 場：東京オペラシティ・コンサートホール（タケミツ メモリアル）

入場料：S 5,500円、A 4,000円、B 3,000円（税込）

出 演：ピアノ：ボリーフエルマン（駐日アルゼンチン大使夫人）、

ピアノ 有森 博、ヴァイオリン 伊藤 奏子、指揮 現田 茂夫

交 通：京王新線 初台駅下車・徒歩1分

主 催：（社）日本オーケストラ連盟、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団

連絡先：東京シティ・フィルハーモニック事務局 03-5704-2001

お 知 ら せ

◎在ア日本大使館領事部の執務時間変更

9月1日より次の通り変更になりました。

月～金 09：30～12：00、 14：00～16：00

◎当協会のホームページの開設

本会報表紙で紹介しましたように、株式会社ロス・ピーノス（本社 ブエノス・アイレス）のご尽力で当協会のホームページを開設しました。当協会会員が行なう文化行事の宣伝等は優先的かつ無料でインターネットを通じ（催物）流しますので、随時当協会事務局へ記事資料、チラシ（カラーが望ましい）等をお知らせ願います。

催物アドレス <http://www.pinos.co.jp/country/event.htm>

◎動き出した日ア修好100周年記念事業組織委員会

11月12日（水）東京会館において修好100周年記念事業組織委員会設立総会が開催される運びとなった。当日は、民間団体・企業、政府関係機関など多数の参集が予定される。

さきに決定をみた諸橋晋六（三菱商事会長）の委員長に加えて、副委員長が次のように決まった。

副委員長	生田正治	大阪商船三井船舶(株)社長
	奥田 碩	トヨタ自動車(株)社長
	国井康夫	日本水産(株)社長
	関本忠弘	日本電気(株)会長
	熊谷直彦	三井物産(株)会長
	藤本芳男	(社) 日本アルゼンチン協会副会長

副委員長兼監事 高垣 佑 (株) 東京三菱銀行頭取

なお、上記設立総会に先立ち、11月4日（火）に第1回運営委員会を東京商工会議所で開き、設立総会の議題、資料（ロゴ、キャッチ・コピーなど）を検討する予定。

◎『中南米経済ダイジェスト』ご購読のご案内

発 行：毎月 第2、第4水曜日にFAXでお届けします。

情 報 源：スペイン国営通信社EFE、他

情 報 量：A4判 3～4ページ／回

購 読 料：5,000円／月（税込み・当協会会員は1割引）

契約期間：半年 又は 1年。但しトライアルとして当初3ヶ月も可。

（3カ月分：15,000円、半年分：30,000円、1年分：60,000円）

申込先：(有) イスパニカ 代表取締役 井戸光子 (当協会員)
03-36930-9711・FAX 03-3630-9717

◎ FUNKY FLAMES 開店

「レゲエ&ソウル」のDJのクラブで若い人達の憩いの場となっておりますので気軽にご来店下さい。

場 所 : FUNKY FLAMES (杉並区高円寺南3-46-3 五明堂ビル2F)

営業時間 : 21:00~05:00 (年中無休)

入場料 : 男性 2,000円 (2ドリンク付き)

女性 1,000円 (1ドリンク付き)

交 通 : JR高円寺駅 下車徒歩3分

連絡先 : FUNKY FLAMES 03-3316-0324 (高橋トク子 当協会員)

◎高橋ミュージック・アカデミー

プロを目指す方も、趣味として楽しむ方も、声楽を基礎から正しく学ぶための教室です。

レッスン科目 : クラシック、ポピュラーミュージック (タンゴ、ラテン、カンツォーネ等)

レッスン日 : 火、木、土 14:00~19:00 (ワンレッスン 50分、予約制)

月謝 : A 1ヶ月 20,000円 (4回)、B 1ヶ月 10,000円 (2回)

ピアノ&指導 : 高橋トク子 (当協会員)

レッスン場 : FUNKY FLAMES (杉並区高円寺南3-46-3 五明堂ビル 2F)

交 通 : JR高円寺駅 下車徒歩3分

事務局 : 03-3311-3688 高橋ミュージック・アカデミー

◎唱歌の集い

日 時 : 第4日曜日 (毎月) 14:00~17:00

唱 歌 : 懐かしい童謡、日本歌曲、シャンソンまで

ピアノ&指導 : 高橋トク子 (当協会員)

場 所 : FUNKY FLAMES

(杉並区高円寺南3-46-3 五明堂ビル 2F、03-3316-0324)

会 費 : ¥4,000円 (茶菓つき)

交 通 : JR高円寺駅 下車徒歩3分

事務局 : 高橋ミュージック・アカデミー (03-3311-3688)

人 事 往 来

(平成9年7月～9月)

1. 訪 ア

柴田 通産省通商政策局審議官	8月3日～6日
堀 北海道知事夫妻	8日～10日
松永 政府代表	9月26日～28日
日本商工会議所南米経済ミッション (稻葉会頭他40名)	27日～30日
原口 外務審議官	10月1日～3日

2. 来 日

マガリーニョス在米貿易代表	7月27日～29日
ラケル・レベナス画伯（個展開催）	8月6日～9月13日
ローズマリー・アレス画伯（個展開催）	8月28日～9月16日

3. 在ア日本大使館 公使 吉原 修 7月25日付発令

(前在ロス・アンゼルス総領事館領事)

あとがき

次号（19号）は新年1月下旬予定です。会員各位の投稿、ご意見をお待ちしています。

事務局からのお願い

「個人正会員および個人賛助会員」募集

個人会員制度の概要は次のとおりです。

①☆正会員（定款上総会の構成員。議決権有り） 年会費 ¥ 10,000

☆賛助会員（定款上総会には非構成員。議決権なし。）

その他は原則として正会員に準ずる) 年会費 ¥ 5,000

②会報：当協会の発行する「会報」を年4回お届け（無料）することにより、日ア間の最新情報を政治、経済、文化などに亘って提供します。

③文化活動ないし演奏会などの催物のご案内、割引案内を行い、ご希望の分野にご参加（実費徴収）いただきます。

④定例総会のほか「親睦会」を開催し会員相互および在京大使館との交流を計ります。

アルゼンチンに関心の深いご友人、関係先の方々を、是非ともご勧誘ください。事務局にご一報あれば加入申込書を、ご本人あて郵送いたします。

⑤郵便局振込口座 00120-6-581381 ⑥第一勧銀本店 普通001-4489193